

検討テーマ：「子どもの健全育成と高齢者が安心できる地域づくりについて」

(○：前回までの意見、■：今回出た意見、●：市長の発言)

	課題	方策
子どもの参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもの数減少。イベントへの参加者が少なく、運営がうまくいかない。(例) ドッジボール大会など</li> <li>○子どもの為を思えば、色んな活動経験は大事。</li> <li>○中学生を防災訓練に参加させて欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○他の町内と合同で実施する。</li> <li>○MVP賞をあげる等、努力した子、すばらしいことをした子をほめる。</li> <li>○学校としては、参加しやすいように市内一斉に防災訓練をしてほしい。防災訓練の日を揃えていく等具体的な動きをしてほしい。</li> </ul>
子ども会の存続	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子ども会に入っていない子どもが多い。イベントに参加してほしい。</li> <li>○子ども会の行事に出る場合、親も参加しないといけない。働く親が増え、役員など親の負担が大きく、今やり方を変えないと存続は難しい。</li> <li>○仕事をフルタイムでしているので、役員をきちんとできない為、申し訳ないから子どもを入れてあげられない。</li> <li>○入りたくても子ども会がない(南二日)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子ども会に入っていない家庭も小学校PTAの行事には参加している。無理やり子ども会でというようにしなくてもいいのではないか。</li> <li>○子ども会に入っていない子も一緒にやれるよう、自治会の企画と一緒にやって行うようにしている。</li> <li>○行事によっては老人会や町内会に子どもを預けるなど相談してほしい。保険の制度もある。</li> </ul>
高齢者の見守り	<ul style="list-style-type: none"> <li>○孤独死の方が町内から出てしまった。</li> <li>○高齢者と独居老人への対応を考えたい。</li> <li>○高齢者はハイキングなどスポーツ関係に参加できない。</li> <li>○老人会があるが、参加者が減ってきている。老人会をもう一度組織しなおしたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○隣人がどんな人か関心をもつ。</li> <li>○民生委員へ協力をお願いする。民生委員だけでは、皆を見きれない。</li> <li>○高齢者の方にも得意な分野を活かせる機会を設ける</li> </ul>
地域の連携・人材育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子ども達や親、高齢者とふれあい広場的なものを、一緒に作ってやりたい。</li> <li>○子どもの背中を誰が押すのか、地域を盛り上げていくのか、リーダー的な存在が大切。</li> <li>○健全育成会や地域コーディネーターは何人いるのか、どこのだれがやっているのかわからない。そんな中で何を活動すればいいのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自治会・子ども会・老人会で一緒に考えていくべきではないか。</li> <li>○自治会の行事には協力を惜しまず参加し、参加者を増やすよう、きずなを広げる趣旨で活動する。</li> </ul>

(○：前回までの意見、■：今回出た意見、●：市長の発言)

	当面の取り組み	取り組みの担い手／アイデア
子どもの参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 合同の防災訓練に楽しみながら取り組めば、かなりの子ども達が参加するのではないか。(小学校で防災フェスティバルを実施。大人子ども含めて約 300 名の参加)</li> <li>■ 子どもは子ども同士誘って参加するのが一番いい。</li> <li>■ 中・高校生には、なるべく参加しやすい環境を作ってあげることが大事。</li> <li>■ 中学生は自分たちの世界が大事な時期。仲間とボランティアや地域の防災訓練に参加することが一番良い。</li> <li>■ エリアを広げて子ども達が参加できるサークルのような枠組みがあるといい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 起震車やスモークハウスがなくても参加者が楽しめる防災訓練は可能。例えば父親と一緒にやる防災ゲームや、防災 2 チームに分かれての様々な容器を使ってのバケツリレーなどを楽しんでいた。</li> <li>■ 子どもの多い町内、少ない町内が合体し、子ども会会長がリレー選手を選出するなど、運営側の工夫も大切。</li> <li>■ 子どもが楽しめるイベントを考えるのに、子ども会や学校の協力を得ることも一つの方策になる。</li> <li>■ 防災では参加確認証など地域貢献を認めるご褒美的なものも必要。</li> </ul>
地域の連携・人材育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ イベントを一緒に行い、活動をアピールしメンバーを増やす。</li> <li>■ 中学生は「夢ワーク」(中学生の職業体験)で年に一回ボランティアで来てくれる。大変いいふれあいの機会になっている。「夢ワーク」の時だけでなく、地域の子と遊べる機会があるといい。</li> </ul>	
高齢者の見守り	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「向こう三軒両隣」での見守り合い。</li> <li>■ 町内を歩いてお一人の方にはなるべく話しかける。</li> <li>■ 一番見守りを強化しなければならないのは、よそから来たアパート住まいの一人暮らしの男性。孤立しさらに生活も乱れやすい。</li> <li>■ 一人一人の住民の意識を高めていく事が大事。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ご近所の方の見守り、時々見てくれることがとても重要。</li> </ul>

(○：前回までの意見、■：今回出た意見、●：市長の発言)

	当面の取り組み	取り組みの担い手／アイデア
子ども会の存続	<ul style="list-style-type: none"> <li>■PTAのイベントがあるとき、逆に子どもたちを子ども会に勧誘する。</li> <li>■子ども会というくくりが、もう少し広くなってもいいのかもしれない。</li> <li>■各町内単位だと子どもは少ない。運動会などで同じ学校の子と町内を越えて会えると楽しめる。</li> <li>■子ども会役員は祖父母（お年寄り）にも可能ではないか。若い人から声をかけて頂くと、お年寄りもやりやすいのではないかと思う。</li> <li>■しゃがりが苦手な子が多く、それを苦にして子ども会をやめてしまう方もいる。しゃがり会と子ども会の活動がセットになっている町内もあるが、別々に活動した方がよい。</li> <li>■しゃがりも6年生で終了してしまう。こども会としゃがり会は別にして中高校生まで参加できる、または中高生のグループを作っても楽しいと思う。</li> <li>■しゃがりは学区は関係ないので子ども会に代わるものというとらえ方をしている。町内のイベントはしゃがり会、子ども会に声をかけ、参加を促している。</li> <li>■本来は東小入学だが、子どもが少ないので出来れば南小に入学・統一できないかという意見も出ている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■今までの役員の選出方法を見直し、合同で出来る色々な取組をしていくことで、役員の負担を減らしていく。</li> <li>■各町内単位の優勝争いも見直していくべきかもしれない。</li> <li>■地域づくりコーディネーターなどが子ども会運営の協力をすることで役員負担が減り、子ども会に入る保護者もいると思う。</li> <li>■保護者の代わりにしてくれる人、老人会の方、地域コーディネーターなどが多くいれば、子ども会存続につながるかもしれない。</li> <li>■自治会でサポートしていきたい。ドッジボール大会は自治会が面倒をみるなど、子ども会役員の負担を減らす方向でやっていく。</li> <li>■他団体との連携では各自治会にスケジュール調整をする係りを置いてもいいのではないか。</li> </ul>